

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570800577		
法人名	社会福祉法人 鼎会		
事業所名	グループホーム かなえ		
所在地	山口県岩国市錦見3丁目7番55号		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町受理日	令和 1年 6月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地にありながら幹線道路から少し入った静かな環境にある。木の温もりに包まれた日本家屋を意識して設計されており、(囲炉裏や中庭がある)家庭的で落ち着いて生活が送れる。窓も大きく開放的であり、日中は施錠もしておらず、のびのびした雰囲気です。臨機応変に近隣の商店に買い物、外食、外出を行っている。食事は毎食ホームで手作りしており、嗜好を聞きながら地域の出前、仕出し、料理店のケータリングなどを利用し喜ばれている。菜園も設けており、利用者と一緒に収穫した旬の野菜などを使用し調理を行っている。地域の方々のボランティア(紙芝居、カラオケ、傾聴)の定期的な方もあり、毎回、利用者も楽しみにしている。特養の看護職員、歯科衛生士と連携することで健康面で安心して暮らせてる。個々の本人のペースや状態に合わせて自由にゆっくり過ごせるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念について内部研修を実施しておられる他、月1回の職員会議時や日々のサービス提供の中で、職員間で話し合いの機会を度々持たれて、理念についての意識づけに努められ、実践につなげておられます。自己評価は、全職員に自己評価をするための書類を配布されて記入してもらい、管理者と職員が話し合っまとめておられます。前回の評価結果を受けて、身体拘束の指針やマニュアルの見直し、職員研修の実施など、改善に向けて取り組んでおられます。外部委託の食材を利用して、利用者の好みを聞いて職員間で一品料理を考えたり、汁物の工夫をして、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。誕生日には利用者の希望を聞いて仕出し料理を利用したり、外食(てまり寿司、海鮮丼など)を楽しまれている他、年2回は利用者と家族、職員と一緒に外食に行かれるなど、利用者が食事を楽しむことができる支援を大切にされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くない				
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事業所内に掲示するとともに、毎月の会議や定期的なホーム内での研修時に唱和して理念の共有を図り、日々のケアに活かしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、月1回の職員会議時に唱和し、理念が日々のケアに反映されているか確認して、共有し、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が自治会に加入しているが、利用者が自治会活動に参加する機会は少なく、今年度も、とんどに参加した程度だが、定期的な地域のボランティア訪問や地域での買い物、外食は行っている。	法人として自治会に加入し、災害時の地域の避難場所となっている。法人の夏祭りに、利用者や家族が参加して、地域の人やボランティア、専門学校生などと交流をしている。併設の特別養護老人ホームで、月1回開催しているボランティアによる喫茶に出かけている。他、ボランティア（空手演武、日本舞踊など）の来訪時や保育園児の来訪時には出かけて、一緒に交流している。事業所には、傾聴、紙芝居、カラオケのボランティアの来訪があり、交流を楽しんでいる。年間を通して看護、介護の実習生や女子刑務所の職場体験を受け入れている。散歩時やゴミ出し時、コンビニエンスストアでの買い物時に会った地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は特にない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義は各自理解しており、実践に取り組めるよう毎月、会議などで検討を重ねている。	管理者は自己評価を全職員で取り組むことについて説明し、職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者は職員と話し合いながらまとめている。身体拘束の指針やマニュアルの見直し、身体拘束適正化のための職員研修(2回)を実施しているなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の状況やサービス内容の活動報告、待機者状況など行っている。事故報告やヒヤリハット報告、苦情も報告している。それを通じてサービスの実際について参加者の方々と意見交換を行い施設に対する理解を深めている。	会議は、特別養護老人ホームと合同で2ヶ月に1回開催している。利用者状況、活動報告、ヒヤリハット、事故報告などの報告をし、話し合いをしている。食事のメニューがパターン化していることから、メンバーに食事風景を見学してもらって、利用者に美味しいものを食べる楽しみを味わってもらうことなどについて意見交換し、職員間でも話し合い、利用者が食事を楽しむことができる支援についての意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用状況を報告している。必要時には相談を行い助言なども受けるようにしている。	市担当者とは、出向いたり、災害関係の感染症等のメールやFAX、電話で相談して助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に相談や情報交換、利用者状況について話し合っているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない。指針、マニュアルを整備している。法人の研修や委員会に参加し、ホーム内での研修も実施し理解を深めている。事故などのリスクの高い方に対しては、行動の把握のため、家人の了解を得て、ドアセンサーや鈴を設置したりして対応している。	法人研修で身体拘束適正化のための研修を2回受講している他、内部研修も2回実施している。3ヶ月に1回、法人と合同の身体拘束適正化検討委員会を実施して、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者には職員が一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては法人研修で学び、職員は理解している。気づいた時には管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人の施設内研修において、虐待防止について学ぶなど、虐待が起きることのないように努めている。定期的に職員全員でセルフチェックをおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取って、利用者や家族に丁寧に説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談窓口については、契約時に説明している。ホーム内に連絡先などを掲示している。意見箱も設置しているが活用された方はいない。相談や要望はその都度聞き報告書や要望書に記入し早急に申し送りを行い周知や回答に努めている。運営推進会議でも報告している。	契約時に、相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時や運営推進会議時、他科受診時、年2回の家族交流会、事業所だよりを手渡し時、請求書送付時(健康面、日常の様子などの書面同封)、電話等で、家族からの要望や意見を聞く機会を設けている。苦情や要望があれば、連絡ノートや生活ケース記録に記録して、管理者や職員間で話し合い、対応することになっている。ケアに関する要望については、その都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的なコミュニケーションを図り、意見を聞けるよう努めている。ホーム内の申し送り時や会議内でも自由に意見や提案を聞く機会を設けている。人事考課時にも個別で面談も行っている。	管理者は、年1回の個人面接や月1回のグループホーム会議、昼の休憩時間などで職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも管理者は声かけをして聞くようにしている。出た意見は反映させるように努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や面談時に出了意見を職場環境などの整備に活かし、やりがいにつながるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は法人で毎月行っている。今年度よりホーム内での研修も定期的に行っている。力量に合わせて現場でのスーパーバイズに努めている。外部研修の参加の機会は少ないが参加できるよう努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は、グループホーム連絡協議会の研修会などに2回参加している。月1回の法人研修(防災対策、リスクマネジメント、事故対策など)に参加している。内部研修は、法人研修の復命報告と緊急時の対応(吸引、タッピング)、身体拘束、高齢者虐待を実施している。新人研修は管理者がマニュアルに添って指導後は、日常業務の中で先輩職員の指導の下、働きながら学べるように支援している。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会には加入はしているが、研修なども少なく交流の機会があまりない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時点で、不安や要望など、現状をで出来るだけ聞き取るようにしている。入居後もセンター方式を利用し情報収集を行い、本人の思いの理解に努めている。本人の言動も、その都度記録し、状態に合わせた対応を検討している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点で、不安や要望など、現状を出来るだけ聞き取るようにして関係作りに努めている。又、不安があれば入居の決まっていない段階でも電話対応や見学を受け入れている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療などのサービスを利用して連携を取っている。家族が遠方の方は他のサービス利用の可能性も入居時に話をしている。将来的に不安を持たれている方は特養の申し込みを進めることもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、家事に参加して頂いたり、調理の助言なども求めて本人の活躍の場面を作るようにしている。その都度、感謝の言葉を掛けるようにして役割を実感できるようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員から利用者の健康状態やホームでの様子、行事予定などを写真を添付し面会時に渡したり郵送を行っている。面会時にも本人の近況を細かく伝えている。家族参加の行事も企画し参加を促している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会もある。可能な限り関係が途切れないよう家族にも協力してもらっている。なじみの美容院や場所などの外出は継続して頂けるよう働きかけている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、宗教関係の知り合いの来訪がある他、電話の取次ぎ、手紙や年賀状での交流を支援している。自宅周辺のドライブ、馴染みの神社、地藏様参り、馴染みの店の利用、家族の協力を得ての一時帰宅、外泊、外食、墓参り、馴染みの美容院の利用、娘宅への外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の関係を把握し、席の配置など配慮している。孤立しないよう職員がその都度、良好な関係が作れるよう声掛けや配慮を行っている。各所にもテーブルやソファを設置して少人数でも過ごせるよう配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	OBとして退所後も運営推進会議や敬老会の参加もあり、関係性を続けることで相談や支援に繋げやすい関係を保っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動を記録に残し、その時の意向や思いをつかむよう努めている。明確な言葉が表出できない利用者や精神状態が不安定な利用者にはセンター方式の本人の思いのシートを利用し支援内容の検討を行っている。	入居時のセンター方式のシートやICFアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子や表情、気づきなどを生活記録に書き入れ、センター方式のシートを利用して、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供初期から生活歴の聞き取りに努めており、センター方式を利用してアセスメントを行い記録している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の本人の習慣や現在の本人の心身状態を見ながら記録やカンファレンスを行い把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で検討した内容を計画担当者がまとめ、プラン作成している。サービス担当者会議への本人又は家族の出席は出来ていないが対応の検討などは随時連絡相談を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となり、本人、家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態や要望に応じての見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAP式用紙を使用し、本人の言動、介護者の考察、実施した介護内容など細かく記録に残しており、情報共有、プランの見直しに活かせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に合わせて医師や併設特養の専門職に相談助言をもらいながら、状況に合わせたサービスを提供している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域のボランティア訪問(傾聴、紙芝居、カラオケ等)により、楽しみのある生活を送れるよう支援している。近隣商店への買い物や桜地蔵へのお参り、馴染みのお店への外出などを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談して複数の医療機関から納得の得られた主治医を決めてもらっている。他科受診については、本人や家族の希望により、主治医以外の病院の受診もある。	協力医療機関7医院の中から本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関に応じたの情報提供や月2回の訪問診療、家族の協力を得ての受診など、それぞれの医療機関に応じた支援をしている。受診時にはバイタルチェックなどの情報提供をしている。他科受診は家族の協力を得ている。夜間、緊急時は併設施設の看護師の協力を得て、24時間連携の事業所の協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には、かかりつけ医の病院の看護職員に連絡し相談している。訪問診療時の看護師にも状態を詳しく報告している。併設特養の看護職員に相談しアドバイスや支援を受けられる体制がある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面にて情報提供を行っている。入院後の電話などでMSWと必要な情報交換を行っている。病状や退院時期についても細かく聞き取り、スムーズな退院に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の変化があれば、早い段階から主治医や家族との話し合いを行い、説明、同意を得て、主治医と連携し終末期を支援してきた。今後も新たな指針を検討中。	重度化や終末期に向けた方針に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と話し合い、看取りや医療機関への移設等も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書やヒヤリハット報告を作成し、発生状況の把握や事故防止策の検討を行っている。応急手当や初期対応訓練(非常時の吸引やタッピング方法等)を定期的に行っている。	事例が発生した場合は、発見、対応した職員が個人記録に対応策を記録し、管理者がコメント後にヒヤリハット、事故報告書を作成し、発生状況の把握と今後の対応策を月1回の職員会議時に検討して回覧し、共有している。他、法人の委員会で再発防止の報告をしている。事故発生時に備えて、法人研修でリスクマネジメント、感染症(食中毒)、ノロウイルス(二次感染予防と実践)などを実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練についてのマニュアルを作成し、定期的に法人と避難訓練を実施している。法人で地域の自治会との災害応援協定を締結しており、協力体制が出来ている。	法人合同で年2回、昼夜想定 of 火災時の避難誘導、通報訓練、消火訓練を実施している。1回は消防署の協力を得ている。年1回、緊急時の連絡網の確認をしている。法人全体として地域の災害応援協定を結んでいる他、法人施設は地域住民の避難場所となっているなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段のケアの中では丁寧語で話しかけるよう努め、排泄等配慮が必要な場面では、さりげない声掛けを行うなどプライバシーの確保に努めている。	事業所は、年2回、接遇に関するセルフチェックを実施している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応があれば、管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。個人記録の保管や取り扱いに注意している。職員は、守秘義務について理解し、遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問口調で声掛けするよう努めている。選択が難しい場合は選択肢を提供し自己決定できるよう工夫している。個々の誕生日などは本人の望むイベント(外食、買い物、食事内容等)やプレゼントを聞き取っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは大まかには決めているが、天候や利用者の希望に合わせ映画鑑賞やパズル、塗り絵などのレクリエーションや外出などできるようにしている。毎週、日曜日の午後は担当者中心にレクリエーションや外出ができるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は本人に毎回洋服を選んで準備して頂いている。本人の好みの洋服を家族に頼んで持ってきていただいたり、一緒に買い物に行っていたりしている。化粧をする方や自分で難しくなってきた方も継続して行えるよう口紅や眉を塗る支援も行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や準備が出来るよう支援している。お菓子作りやイベント食は一緒に調理から行うこともある。食事は職員と全員で一緒に会話を楽しみながら食べている。可能な方は下膳、湯呑を洗うなどの片づけも行っている。	食材は外部委託を利用して、三食とも事業所で調理している。利用者は下ごしらえ、米研ぎ、盛り付け、配膳、下膳、テーブル拭き、トレイ拭き、コップ洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ物を食べながら味つけや盛り付けの話を楽しんでいる。誕生日には利用者の希望を聞いて外食や仕出し料理(てまり寿司、海鮮丼など)、ケーキでお祝いをしている。季節の行事食(おせち料理、お彼岸のおはぎなど)、年2回は利用者、家族、職員と一緒に外食に出かけている。おやつづくり(ぼた餅、お好み焼き、ホットケーキなど)や家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一口大から刻み、ペースト状まで本人の状態に合わせて対応している。とろみが必要な方も状態に合わせてとろみの量を調整している。水分は進みにくい方には甘味料を入れたり、本人の嗜好に合わせた物を提供している。嗜好に合わせて代替えができるように補食を常備している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者の状態に合わせて、毎食後、声掛けを行って促しを行っている。自分で出来ない方や見守りが必要な方、物品の管理が難しい方には個々に合わせた介助を行っている。毎月、歯科医師、歯科衛生士にも指導をもらっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が続けられるよう誘導や介助をおこなっている。失敗があってもパットや紙パンツだけに頼らず状態に合わせてアイテムを家人と相談し選択している。	排泄管理表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保ができるよう、お茶の時間や入浴後の水分摂取の時間を設けている。排便状態に合わせてミルミルSやオリゴ糖、ヨーグルト等の摂取を促している。予防に歩行を促したり体操など行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めず、本人の希望を聞いたり、入浴できていない日数に応じて声を掛け気持ちよく、ゆっくり入浴できるようにしている。湯温や入浴方法等も個々に合わせた対応を行っている。防水のCDラジカセで音楽を聴きながら入浴できたりバスクリンを入れてアロマ効果や温浴が楽しめる工夫も行っている。	入浴は日曜日以外の毎日、14時から15時30分の間にゆっくりと入浴できるように支援をしている。利用者一人ひとりの要望や状態に応じて、清拭やシャワー浴、足浴などの対応をしている。入浴したくない人には、声かけの工夫や職員の交代、時間の変更をするなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自のペースや体調に合わせている。日中でも本人の体調や習慣に応じて横になる時間を取れるようにしている。夕食後も就寝前まで習慣に合わせて一緒にテレビをみたりお茶を飲んだりする等、ゆったり過ごせるよう対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を受け、職員1人ひとりが処方薬の理解に努めている。薬の変更の際には薬剤師から説明を受け職員間で共有できるように申し送っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の本人の会話などから意向をくみ取り、家事や生活場面での役割が持てるような支援を行っている。嗜好に合わせた食事や外出場所なども本人の会話の中から決めている。	プランターや畑の苗植え、草抜き、居室の掃除、ゴミ出し、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花や野菜の水やり、野菜(ネギ、豆など)の収穫、テーブル拭き、ぬり絵、書初め、テレビ視聴(時代劇、歌番組)、DVD視聴、黒ひげゲーム、雑誌、新聞、本を読む、カラオケ、廊下の散歩、おやつづくり、計算ドリル、保育園児の遊戯、チラシのゴミ箱づくり、パズルなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換などの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出支援は計画的なものから、天候に合わせて近隣商店の買い物外出やお茶外出など行っている。誕生日は本人の希望に添えるよう外出先など家族と相談して調整している。	スーパーやコンビニエンスストアへの買い物、ゴミ出し、周辺の散歩、潮風公園の紅葉、錦帯橋の桜や菖蒲、バラ、梅を見に出かける。市内巡り(自宅周辺、市街地)、誕生日のケーキの受け取り、外食に出かけている他、家族の協力を得ての一時帰宅、外出、外泊など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方にはお金は所持してもらっていないが買い物外出の際に職員と共に支払いする場合などに一緒に行えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持している方もいる。希望があれば、事務所の電話を使用できるが自分から掛ける場面は少なく、家族からの電話で変わって話すことはある。手紙を出す方はいないが家族からの手紙は本人に渡している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温や湿度、換気などに気をつけている。自然光の入りやすい大きな窓で中庭に梅や桃木、もみじなどが植えてあり、季節を感じることができる。幹線道路から少し離れているので静かである。季節に合わせた飾りつけや、掲示物をして季節感を感じられるよう工夫している。	和室の室内は回廊式になっており、中庭に面した履き出し窓からの陽ざしで廊下や食堂などは明るく、庭に植えた梅や桃の木を眺めることができる。回廊式の廊下にはテーブル、椅子、ソファなどを配置し、利用者の居場所となっている。食堂などには季節の壁面飾りや折り紙の作品、手づくりのカレンダー、行事の写真などを飾り、玄関には花や雛人形が飾っており、季節感や生活感を感じることができる。温度、湿度、換気にも配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の各所に椅子やテーブル、テレビを配置し、思い思いの場所で気の合う方同士で過ごしたり、好きな番組を見ることができるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は出来る限り、使い慣れた物を自宅から持ってきていただいて、自宅に近い環境設定を行い居心地の良い空間づくりをしている。利用者の状態に合わせて家族と相談しながら配置換え等も行っている。	ベット、箆笥、テレビ、ソファ、座椅子、衣装かけ、コタツ、ドライヤー、置時計、化粧品、三段棚、カセットデッキ、スタンド、ぬいぐるみ、生活用品など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真、花、色紙などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口や浴室、トイレなどそれぞれが分かりやすいよう表札以外にも工夫している。利用者の状態に合わせて表記があった方がいいものなどもその都度合わせて作成している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム かなえ

作成日: 令和 元 年 6 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域での買い物や地域の方のボランティア来訪はあるが、自治会活動や地域での行事に参加ができていない。	利用者、事業者が地域の一員として地域の行事やサロンなどに参加し、日常的に交流を行う。	情報収集を行い、地域の行事やサロンなどに参加する。	6ヶ月
2	35	事故報告書やヒヤリハット報告の活用はできているが、事故発生時に備えての応急手当や初期対応の訓練が不十分。	事象別に事故発生を想定し、定期的に訓練や研修を行う。	転倒、誤薬、行方不明など事象別に想定した内容で訓練や研修を定期的に行う。	6ヶ月
3	28	記録はSOAP式用紙を使用しているが、本人の行動や介護した内容の記録は細かく記入されているが、本人の言葉や介護者の考察などの記録が不十分。	本人の言葉や介護者の気づきなどを意識的に記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行う。	記録時間を確実に確保し、記録を丁寧かつ正確に記入する。本人の言動や介護者の気づきなどを意識することにより、記入し支援サービスの実践に活かす。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。